



まごころ児童デイ

スノーズレン

暖かく過ごしやすいになり、新しいもので溢れキラキラしている4月。しかしその反面、変更変化が多く、子ども達にとってはストレスの多い時期でもあります。特に今年度は利用児童の多くが新設校への転校となり、大人も子どももバタバタしています。

そこで今月はストレス発散活動の新たな試みとして「スノーズレン」を導入してみました。

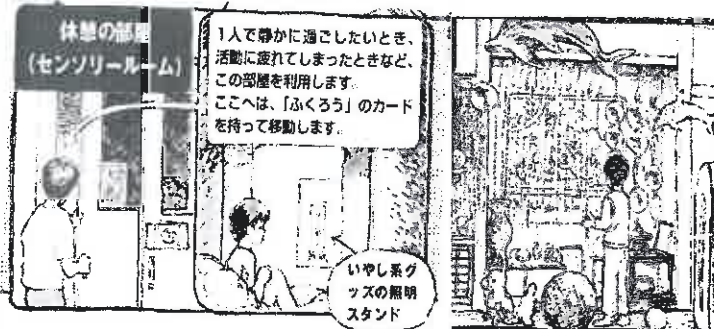
スノーズレン (Snoezelen)

障害をもつ人が、光や音、触覚や香りなどの心地よい刺激を楽しみ、安らげる空間を介護者と共有し、楽しむことを目的としたもの。オランダが発祥地ですが、その効果が認められ世界各国で普及しつつあります



癒し系ミュージック、魚の映像、ミラーボールにビーズクッション、光るおもちゃにボールプール・・・

手近にあるものを使って見よう見真似でやってみました。効果があったかどうかは正直なところ不明・・・なのですが、薄暗く、神秘的な雰囲気の中、子ども達は静かに、穏やかに参加していました。



スノーズレンの例
佐々木正美監修：自閉症児のための絵で見る構造化(学研)より

デイサービス通信



一文字リズム

デイサービスで、今よくはまっているリズム遊びがあります。

歌詞の中の決まった文字だけ反応して、手拍子する遊びです。

ら、みんなで一緒に歌い、歌詞の中に「さ」が出てきたら、手を叩きます。初めの内は、関係のない所で手拍子していたこともあり、だんだんと集中力が高まって、今ではピタッとみんなの息が合うと「ヤッター！」と歓声が上がります。

他に「案山子(かかし)」の「の」や「か」で手拍子したり、「おさるのかごや」の「さ」の手拍子はまだまだスタッフも間違えたりして、難易度が高いです。それでも、真剣な眼差しで楽しむリズム遊びには笑いが絶えません。

4月は、大きな鯉のぼりの1枚1枚のうろこ作りを共同制作し、2匹の鯉のぼりが広場を気持ちよく泳いでいました。



心っれづれ



地域活動「子供会」

4月から町内の子供会役員を引き受けることになりました。活動内容はドッジボール大会の運営、資源回収の当番、福祉ボランティア展に出展する作品づくりなど、毎月のように行事が予定されています。

役員のお話を頂いたときは、「仕事と家事と自分の子供を育てるだけでも大変なのに、町内の子供たちの面倒をみる事が出来るのかしら？子供にケガをさせたら困るし、1つくらい無くせる行事はないかしら？」と消極的でした。

しかし、研修会で講師の方が「行事を止めれば事故はゼロになる。でもそれは望ましいことではない。安全対策をし、子供自らが事故防止能力を持つよう指導していかなくてはいけない、楽しくやっても1年、嫌々やっても1年、どうせなら楽しんで活動して下さい」と話されました。

この研修会以降、私の子供会に対する考え方が少し前向きになり、安全を第一に考えた上で、子供たちが楽しんで参加してくれるような行事にしていこうと思うようになりました。そして、子供たちの名前を覚えることが大事だと思い、みんなが集まっている時に写真を撮らせてもらい、時間がある時に見ては覚えています。注意する時は、「危ないよ！」より「〇〇くん、危ないよ！」の方が反応してくれます。

地域には、子供会役員以外にも様々なボランティアの方々があります。みなさん忙しい時間を割いて「よりよい地域にするために」と活動しておられます。私も微力ながら1年間がんばっていこうと思います。

協力会員 武山佳代子



ヘルパーだより

84歳のAさんは、視覚障害のあるカラオケが大好きな方です。まごころの外出支援(同行援護)を週2回利用され、1回はご自身の趣味でもあるカラオケクラブへ。もう1回はタクシーやバスを利用してのお買物等に出かけてみえます。

担当ヘルパーの私は、週1回のカラオケクラブへの同行援護をしております。カラオケクラブへの数分の道中では「今日は快晴です、雲1つありません」「今日は畑に蝶々がたくさん飛んでいます」等ワーカーが見たままの自然をお伝えし歩きます。そんな時Aさんは「そうですかー」と感心したように答えて下さいます。

カラオケクラブでは、いつも点字の歌詞カードを持ち歌われます。その歌詞カードの量は手提げ袋一杯で、レパートリーの多さがうかがえます。新しい曲に取り組まれる時は、持参したカセットにクラブ内で曲を録音し、歌詞は自宅でワーカーが読み上げ、ご自身が点字を打たれ、歌詞カードを作られます。

クラブの皆さんからは「Aさんは新しい曲を覚え、感心するわ」とか、Aさんが歌われている時、「いいよー、いいよー」と声援がかかります。年を重ね、また障がいをお持ちでも、家に閉じこもることなく、天候に左右されることもなく、外に出ているいろいろな人と触れ合ってみえる姿、また新しいことにも挑戦されている姿を拝見していると、Aさんから教わるのが一杯です。



利用者さんからのことば・・・

外に出かける機会の少ない私なので、家の中で出来るといえばカラオケです。のど、腹から声を出すことは良いことなので喜んでやっています。これからは『カラオケ喫茶』へもお願いしようかと思っています。